

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-244938

(43) 公開日 平成9年(1997)9月19日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 12/00	5 4 5		G 0 6 F 12/00	5 4 5 A
	5 1 8			5 1 8 A
13/00	3 5 5		13/00	3 5 5
H 0 4 M 3/42			H 0 4 M 3/42	Z

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平8-47851

(22) 出願日 平成8年(1996)3月6日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 山口 和幸

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

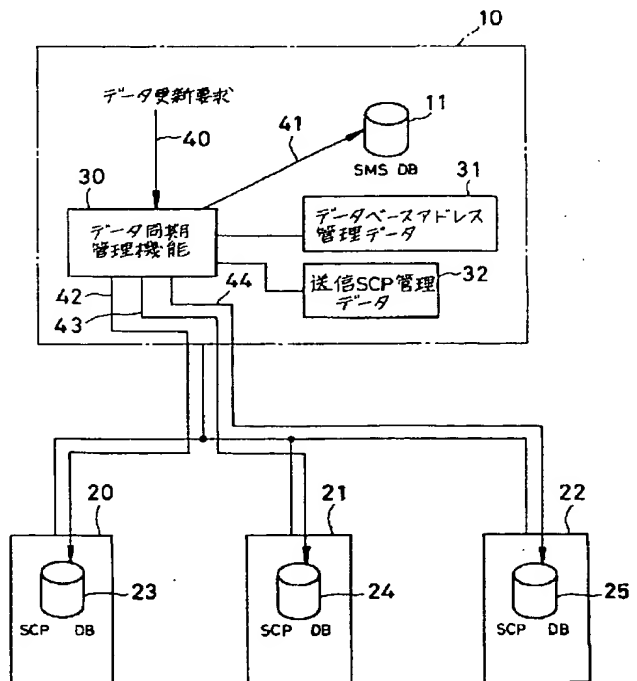
(74) 代理人 弁理士 ▲柳▼川 信

(54) 【発明の名称】 データベース管理システム

(57) 【要約】

【課題】 ハードウェア量を少なくすると共に、アクセス速度を速くする。

【解決手段】 各呼サービス（例えば、フリーフォンサービス）に対応させてSCP（Service Control Point）20、21、22を設ける。各SCPには、対応する呼サービスを実現するために必要な機能のみを保持する。これにより、各SCPで保持するデータ量を削減することができ、ハードウェア量が少なくなる。各SCPに保持すべきデータ量が少なくて済むため、各SCPを半導体メモリで実現することができる。よって、各SCPへのアクセス速度が速くなり、呼サービスの処理能力を向上させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 インテリジェントネットワークシステムにおけるサービス夫々に対応して設けられ該サービスを実現するための機能データのみを保持する保持手段と、外部指令に应答して前記保持手段に保持された機能データの内容を変更する機能データ更新手段とを含むことを特徴とするデータベース管理システム。

【請求項2】 前記保持手段は、半導体メモリによって構成されていることを特徴とする請求項1記載のデータベース管理システム。

【請求項3】 前記サービスは、フリーフォンサービスであることを特徴とする請求項1又は2記載のデータベース管理システム。

【請求項4】 前記サービスは、プレミアムレートサービスであることを特徴とする請求項1又は2記載のデータベース管理システム。

【請求項5】 前記サービスは、コーリングカードサービスであることを特徴とする請求項1又は2記載のデータベース管理システム。

【請求項6】 前記サービスは、仮想私設電話網サービスであることを特徴とする請求項1又は2記載のデータベース管理システム。

【請求項7】 前記サービスは、電話投票サービスであることを特徴とする請求項1又は2記載のデータベース管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はデータベース管理システムに関し、特にインテリジェントネットワークシステムにおけるデータベース管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】 一般に、インテリジェントネットワークシステムにおいては、システムの提供者（例えば、電話会社）と契約を結ぶことによって種々の呼サービスの提供を受けることができる。例えば、周知のフリーフォンサービス、プレミアムレートサービス、コーリングカードサービス、仮想私設電話網サービス、電話投票サービス等がある。これらのサービスを実現するためには、呼処理制御システムであるサービス制御ポイント（Service Control Point；以下、SCPと呼ぶ）を複数設け、これらに各呼サービスを実現するための機能に関するデータを書込んで保持しておく必要がある。

【0003】そして、各SCPは、1台のサービス管理システム（Service Management System；以下、SMSと呼ぶ）で集中管理されるのが一般的である。すなわち、SMSに対してデータの新規登録や更新をSMSに対して行うことにより、自動的にそのデータがSCPに対しても登録又は更新されるのである。

【0004】従来、この種のデータベース管理システムには、特開平7-160562号公報に記載されているものがある。これは、1台のサービス管理システム（Service Management System；以下、SMSと呼ぶ）で集中管理、運用されるデータと同一のデータを各SCP内に保持しておくものである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のデータベース管理システムでは、インテリジェントネットワークシステムにおいて要求される多種多様な呼サービスに対応するためのデータを全てのSCPに保持していた。このため、SCPの記憶容量が非常に大きくなり、ハードウェア量が多くなるという欠点があった。

【0006】本発明は上述した従来技術の欠点を解決するためになされたものであり、その目的はハードウェア量の少ないデータベース管理システムを提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明によるデータベース管理システムは、インテリジェントネットワークシステムにおけるサービス夫々に対応して設けられ該サービスを実現するための機能データのみを保持する保持手段と、外部指令に应答して前記保持手段に保持された機能データの内容を変更する機能データ更新手段とを含むことを特徴とする。

【0008】

【発明の実施の形態】 本発明の作用は以下の通りである。

【0009】各呼サービスに対応させてSCPを設ける。各SCPには、対応する呼サービスを実現するために必要な機能のみを保持する。これにより、各SCPで保持するデータ量を削減することができ、各SCPをメモリで実現することができる。よって、各SCPへのアクセス速度が速くなり、呼サービスの処理能力を向上させることができるのである。

【0010】次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0011】図1は本発明によるデータベース管理システムの一実施例の構成を示すブロック図である。図において、本発明の一実施例によるデータベース管理システムは、インテリジェントネットワークシステムにおいて一元管理されるSMS DB（SMS Data Base）11を保持するSMSシステム10と、呼処理を実行するために参照されるSCP DB（SCP Data Base）23、24、25を夫々保持するSCPシステム20、21、22とを含んで構成されている。

【0012】SMS DB11は、磁気ディスク装置や光ディスク装置等で実現されているものとする。このSMS DB11には、後述するデータ同期管理機能3

3

0、データベースアドレス管理データ31及び送信SCP管理データ32が記憶されているものとする。

【0013】図2は、SMSを送信ノード1とし、このSMSに登録されるデータをどのSCP（送信ノード2～4）に送信するかを定義するデータベースアドレス管理データ31のデータ設定例50～57を示す図である。データベースアドレス管理データ31はシステムに存在する各機能テーブル毎にどのSCPに対してデータの送信を行うかを決定するためのデータである。この図2における各データは、夫々次の意味を持つ。

【0014】設定データ50は、SMS10にのみデータを登録し、SCPシステム20～22に対してデータの送信を行わないことを示している。この設定データ50に対応するデータ送信IDは、“1000000000”である。

【0015】設定データ51は、SMS10に登録したデータをSCPシステム20にのみ送信することを示している。この設定データ51に対応するデータ送信IDは、“110000000000”である。

【0016】設定データ52は、SMS10に登録したデータをSCPシステム21にのみ送信することを示している。この設定データ52に対応するデータ送信IDは、“101000000000”である。

【0017】設定データ53は、SMS10に登録したデータをSCPシステム22にのみ送信することを示している。この設定データ53に対応するデータ送信IDは、“100100000000”である。

【0018】設定データ54は、SMS10に登録したデータをSCPシステム20及びSCPシステム21に送信することを示している。この設定データ54に対応するデータ送信IDは、“111000000000”である。

【0019】設定データ55は、SMS10に登録したデータをSCPシステム20及びSCPシステム22に送信することを示している。この設定データ55に対応するデータ送信IDは、“110100000000”である。

【0020】設定データ56は、SMS10に登録したデータをSCPシステム21及びSCPシステム22に送信することを示している。この設定データ56に対応するデータ送信IDは、“101100000000”である。

【0021】設定データ56は、SMS10に登録したデータをSCPシステム20、SCPシステム21及びSCPシステム22に送信することを示している。この設定データ57に対応するデータ送信IDは、“111100000000”である。

【0022】図3は、個々のテーブル毎にデータ送信を行うSCPを決定する送信SCP管理データ32のデータ設定例60～66を示す図である。送信SCP管理デ

4

ータ32は、インテリジェントネットワークシステムで提供される機能を実現するために必要なデータの集まりであるテーブル単位に、データ送信IDを定義するデータである。データ送信IDは、どのSCPにおいて必要なデータであるかを決定し、データベースアドレス管理データで定義するものである。要するに、この送信SCP管理データ32は、ネットワーク上に存在するSCPに対して、いずれの組合わせでデータ送信を行うか、つまり夫々のSCPにどのような機能を配置するかに従い、特定のデータを配信しなければならないSCPの組合わせを定義するものである。

【0023】この図3に示されているデータ設定例は、夫々次の意味を持つ。

【0024】設定データ60は、機能1用テーブルのデータ送信IDを“110000000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム20に送信される。

【0025】設定データ61は、機能2用テーブルのデータ送信IDを“101000000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム21に送信される。

【0026】設定データ62は、機能3用テーブルのデータ送信IDを“100100000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム22に送信される。

【0027】設定データ63は、機能4用テーブルのデータ送信IDを“111000000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム20及びSCPシステム21に送信される。

【0028】設定データ64は、機能5用テーブルのデータ送信IDを“110100000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム20及びSCPシステム22に送信される。

【0029】設定データ65は、機能6用テーブルのデータ送信IDを“101100000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム21及びSCPシステム22に送信される。

【0030】設定データ66は、機能7用テーブルのデータ送信IDを“111100000000”として定義している。これにより、図2を参照すると、機能用テーブルのデータはSMSに登録されると共に、SCPシステム20、SCPシステム21及びSCPシステム22に送信される。

【0031】ここで、データ同期管理機能30の動作に

ついて図4及び図5を参照して説明する。

【0032】図4は、データ同期管理機能30における初期化処理を示すフローチャートである。データ同期管理機能30のプロセスが起動されると、データベースアドレス管理データ31を展開するために用いる内部メモリ領域(図1には示されていない)を確保する(ステップ41)。そして、データベースアドレス管理データ31をディスク上のデータベースから読み上げ(ステップ42)、データベースアドレス管理データ31を内部メモリ領域へ展開する(ステップ43)。

【0033】次に、送信SCP管理データ32を展開するために用いる内部メモリ領域を確保する(ステップ44)。そして、送信SCP管理データ32をディスク上のデータベースから読み上げ(ステップ45)、送信SCP管理データ32を内部メモリ領域へ展開する(ステップ46)。

【0034】以上により、起動処理が終了となり、データ更新要求の待ち状態となる(ステップ47)。

【0035】図5は、データ同期管理機能30におけるデータ更新要求に対する処理を示すフローチャートである。

【0036】まず、データ更新要求があるまで待ち状態となる(ステップ51)。データ更新要求があった場合、そのデータ更新要求データから機能テーブル名を抽出し(ステップ51→52)、機能テーブル名を使用して内部メモリ中の送信SCP管理データにアクセスする(ステップ53)。これにより、機能テーブルに対応するデータ送信IDを獲得する(ステップ54)。

【0037】次に、この獲得したデータ送信IDを使用して内部メモリ中のデータベースアドレス管理データ31にアクセスする(ステップ55)。これにより、データ送信IDに対応する送信ノードを獲得する(ステップ56)。

【0038】ここで、送信ノードの指定があるかどうかを判断し(ステップ57)、送信ノードの指定がない場合は再びデータ更新要求があるまで待ち状態となる(ステップ57→51)。

【0039】送信ノードの指定がある場合、その指定内容に従って、SMS DBへの書込み(ステップ58)、SCP20へのデータ送信(ステップ59)、SCP21へのデータ送信(ステップ60)、SCP22へのデータ送信(ステップ61)が行われる。このデータ送信等は、指定されたすべてのノードに対して行われる(ステップ62→57)。指定されたすべてのノードに対する送信が終了すると、再びデータ更新要求があるまで待ち状態となる(ステップ62→51)。

【0040】以上の動作を行うことにより、データベース同期管理機能30はSMSの保持データと各SCPの各保持データとの一貫性を保っているのである。

【0041】次に、インテリジェントネットワークス

テムにおけるサービスの例について図6を参照して説明する。同図には、サービスの例として、フリーフォンサービス(FPH; FREEPHONE SERVICE)、プレミアムレートサービス(PRM; PREMIUM RATE SERVICE)、コーリングカードサービス(CCS; CALLING CARD SERVICE)、仮想私設電話網サービス(VPN; VIRTUAL PRIVATE NETWORK)、電話投票サービス(VOT; VOTE)が掲げられている。

10 【0042】フリーフォンサービス(FPH)は、サービス利用者がサービス提供者に電話をかけた場合、その時の通話料がサービス提供者に課金されるサービスである。プレミアムレートサービス(PRM)は、サービス利用者がサービス提供者に電話をかけると、さまざまな情報を提供してくれるサービスである。コーリングカードサービス(CCS)は、網提供者が発行するコーリングカード、または一般のクレジットカードを使って手軽に電話をかけられるサービスである。仮想私設電話網サービス(VPN)は、公衆網を使って仮の私設網を構築できるサービスである。電話投票サービス(VOT)

20 は、サービス加入者が設定した電話番号にサービス利用者が電話をかけ、複数(10ヶ以内)の選択肢の内から1つを選び投票として登録できるサービスである。

【0043】そして、これら各サービスを実現するための機能として、サービス基本機能(BASE; BASIC SERVICE)、許可番号機能(PIN; PERSONAL IDENTIFICATION NUMBER)、%呼分配機能(CD; CODE DISTRIBUTION)、発信地域別ルーティング(ODR; ORIGIN DEPEND ROOTING)、時間別ルーティング(TDR; TIME DEPEND ROUTING)、発信者ガイダンス(OUP; ORIGINATING USER PROMPT)が掲げられている。

【0044】図中の“必須”は、各サービスを実現するための基本機能である。また、図中の“オプション”は、各サービスに対して使用することができる機能であることを示し、“未使用”は、そのサービスでは使用されない機能であることを示す。

40 【0045】すなわち、図に示されているように、全てのサービスを実現するためには、サービス基本機能(BASE)が必要である。そして、フリーフォンサービス(FPH)及びプレミアムレートサービス(PRM)を実現するために、許可番号機能(PIN)、%呼分配機能(CD)、発信地域別ルーティング(ODR)、時間別ルーティング(TDR)及び発信者ガイダンス(OUP)がオプションになっている。また、コーリングカードサービス(CCS)を実現するために、許可番号機能(PIN)がオプションになっている。さらにまた、仮想私設電話網サービス(VPN)を実現するために、許

50

可番号機能(PIN)、%呼分配機能(CD)、時間別ルーティング(TDR)及び発信者ガイダンス(OUTP)がオプションになっている。さらに、電話投票サービス(VOT)を実現するためには、許可番号機能(PIN)、時間別ルーティング(TDR)及び発信者ガイダンス(OUTP)がオプションになっている。

【0046】ここで、許可番号機能(PIN)は、暗証番号を知っている発信者だけの着信を許容する機能である。%呼分配機能(CD)は、サービス提供者が、複数の着信端末を有している場合に、端末毎に設定されている着信割合でランダムに着信させるための機能である。発信地域別ルーティング(ODR)は、全国共通番号発信された呼であっても、その発信地域に応じて、最寄りの支店・支社に接続させることができる機能である。時間別ルーティング(TDR)は、時間によって、あるいは曜日によって、あるいは特定日を設定することによって、その時々に応じてルーティングを変えることができる機能である。発信者ガイダンス(OUTP)は、発信者に、音声によるメニューを聞かせて、サービスを選択させることができる機能である。

【0047】図7は、各機能におけるデータの設定例を示す図であり、フリーフォンサービス(FPH)の場合における機能の一部が示されている。

【0048】図において、サービス基本機能(BASE)を構成するデータは、電話番号(キー情報)と着信先電話番号とから構成されている。例えば、電話番号“0120-123456”と着信先電話番号“0471-85-1111”である。

【0049】また、許可番号機能(PIN)を構成するデータは、電話番号(キー情報)と暗証番号とから構成されている。例えば、電話番号“0120-123456”と暗証番号“1234”である。

【0050】さらにまた、%呼分配機能(CD)は、電話番号(キー情報)と、配分比率1~10と、各配分比率1~10に対応する着信先電話番号とから構成されている。例えば、電話番号“0120-123456”と、配分比率1“10%”に対して“0471-85-1111”と、配分比率2“10%”に対して“0471-85-2222”、配分比率3“10%”に対して“0471-85-3333”、配分比率10“10%”に対して“0471-85-0000”である。

【0051】発信地域別ルーティング機能(ODR)は、電話番号(キー情報)と、発信地域ID(キー情報)と、着信先電話番号とから構成されている。例えば、電話番号“0120-123456”と、発信地域ID“01”と、着信先電話番号“0471-85-1111”である。

【0052】時間別ルーティング機能(TDR)は、電話番号(キー情報)と、時間帯1~4と、時間帯1~4に対応する着信先電話番号とから構成されている。例え

ば、電話番号“0120-123456”と、時間帯1“8:00~17:00”に対して“0471-85-1111”と、時間帯2“17:00~20:00”に対して“0471-85-2222”と、デフォルト着信先電話番号“0471-85-3333”である。これら機能データ名は、各サービス毎に、SMS及びSCPに保持される。例えば、“FPH-BASE”、“FPH-PIN”、“FPH-CD”、“FPH-ODR”、“FPH-TDR”というデータテーブル名の形式で保持される。

【0053】図1に戻り、かかる構成において、SMS10上においてデータの更新要求40が発生すると、SMS10内のデータ同期管理機能30は、データ更新要求のあったデータテーブル名を使用して送信SCP管理データ32にアクセスする。このアクセスにより、データ同期管理機能30は、指定したデータテーブル名に該当するデータ送信IDを得る。次に、送信SCP管理データ32で得られたデータ送信IDを使用してデータベースアドレス管理データ31にアクセスし、実際にデータを送信すべきノードを決定する。該当するノードがSMSの場合、SMS DB11へのデータ書込みを行い、さらにSCPのノードへの送信が必要な場合は、SCPノードへのデータ送信42、43、44を行う。

【0054】例えば、データ更新要求が機能2用テーブルに対する更新要求であった場合、送信SCP管理データ32にアクセスすることによってデータ61が得られる。この得られたデータ送信ID“1010000000”でデータベースアドレス管理データ31にアクセスすると、データ52が得られる。このデータに従い、データ同期管理機能30は、機能2用テーブルに関して、SMS DB11への書込み41とSCP21へのデータ送信43のみを行う。

【0055】つまり、データ同期管理機能30は、特定の機能テーブルについてのデータ更新要求があった場合、送信SCP管理データ32に従い、その機能テーブルが持っているデータ送信IDを検索し、次にデータ送信IDを使用してデータベースアドレス管理データ31を検索し、実際にデータを配信すべき送信ノード名を得ているのである。

【0056】なお、本例では、送信SCP管理データ32及びデータベースアドレス管理データ31を用いて送信ノード名を得ているが、データ送信IDを入力してデータベースアドレス管理データ31から送信ノード名を得る構成や、直接送信ノード名を入力する構成にしても良いことは明らかである。

【0057】要するに、本システムでは、SMSで保持されるデータを、機能毎に特定のSCPにのみ配信することにより、SMSで管理されている全データを全てのSCPが保持するのではなく、SCP毎に定められた特定の機能に関するデータのみを保持しているのである。

そして、SMS上のデータベース同期管理機能が予め定義されているデータベースアドレス管理データと送信SCP管理データに従い、個々のデータ更新要求に対して、どのSCPに対してデータを配信するかを決定し、特定のSCPにのみデータの配信を行っているのである。これにより、各SCPは少ない記憶容量で済む。よって、半導体メモリでSCPを構成でき、結果として各SCPへのアクセス速度を速くすることができるのである。

【0058】請求項の記載に関連して本発明は更に次の態様をとりうる。

【0059】(1) 前記保持手段は、SCPであることを特徴とする請求項1～7のいずれかに記載のデータベース管理システム。

【0060】(2) 前記機能データ更新手段は、SMSであることを特徴とする請求項1～7のいずれかに記載のデータベース管理システム。

【0061】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、SMSで管理されている全データを全てのSCPが保持するのではなく、サービス夫々に対応してSCPを設け、各SCP毎に定められた特定の機能に関するデータのみを保持することにより、各SCPを少ない記憶容量で実現でき、ハードウェア量を少なくできるという効果がある。これにより、また半導体メモリでSCPを構成でき、結

果として各SCPへのアクセス速度を速くすることができるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例によるデータベース管理システムの構成を示すブロック図である。

【図2】データベースアドレス管理データのデータ設定例を示す図である。

【図3】送信SCP管理データのデータ設定例を示す図である。

【図4】データ同期管理機能における初期化処理を示すフローチャートである。

【図5】データ同期管理機能におけるデータ更新要求に対する処理を示すフローチャートである。

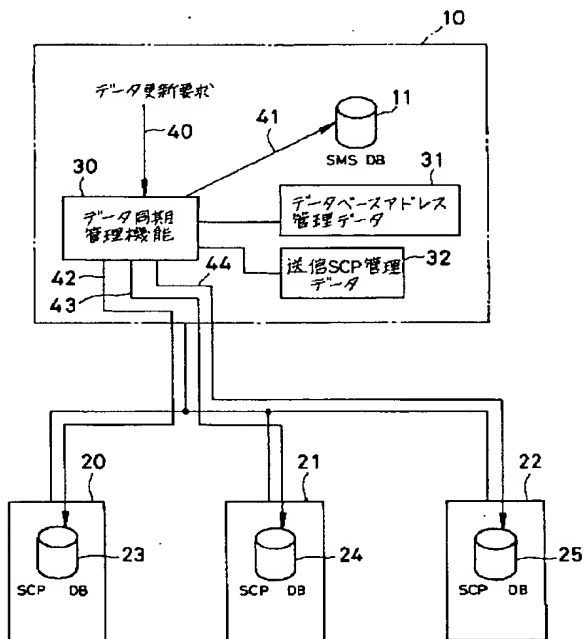
【図6】インテリジェントネットワークシステムにおけるサービスの例を示す図である。

【図7】各機能におけるデータの設定例を示す図である。

【符号の説明】

10 SMS
11 SMS DB
20、21、22 SCP
23、24、25 SCP DB
30 データ同期管理機能
31 データベースアドレス管理データ
32 送信SCP管理データ

【図1】



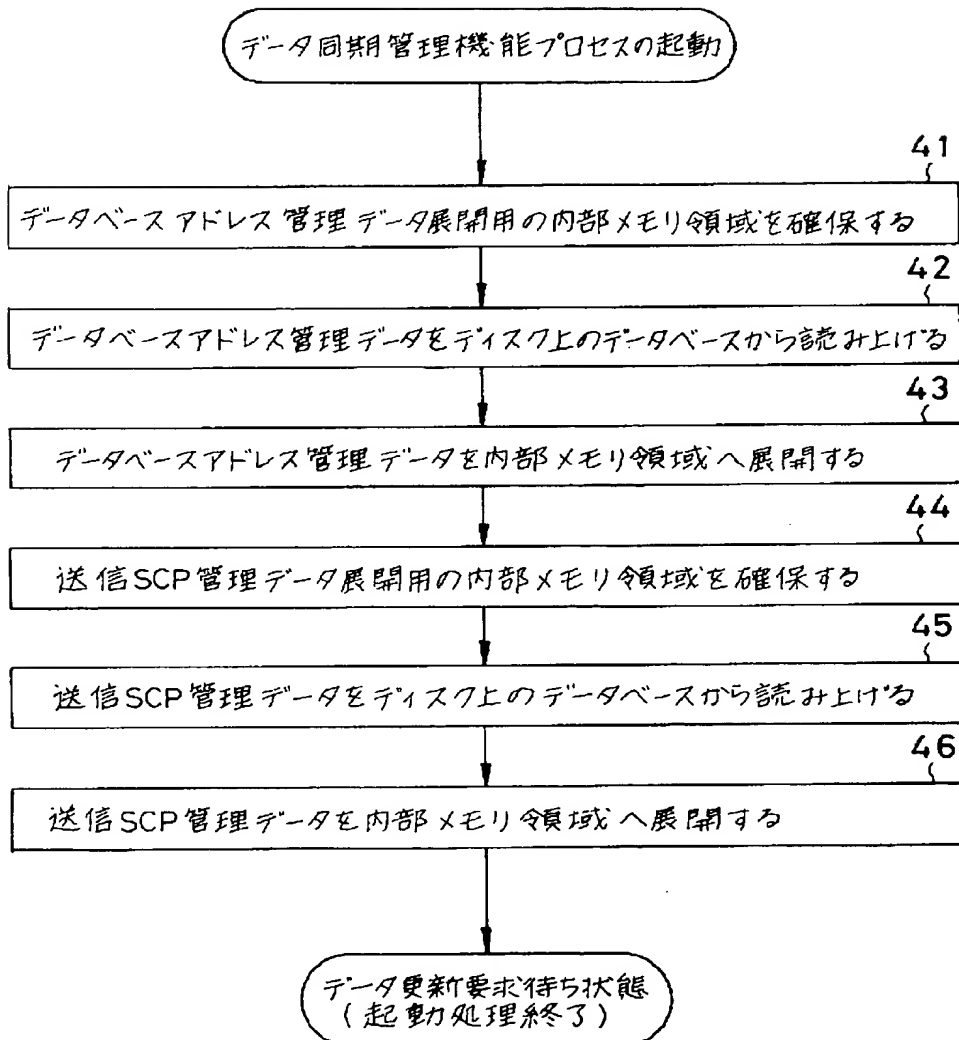
【図3】

データ送信	
データテーブル名	ID
設定データ 6 0	機能 1 用テーブル 11000000000
設定データ 6 1	機能 2 用テーブル 10100000000
設定データ 6 2	機能 3 用テーブル 10010000000
設定データ 6 3	機能 4 用テーブル 11100000000
設定データ 6 4	機能 5 用テーブル 11010000000
設定データ 6 5	機能 6 用テーブル 10110000000
設定データ 6 6	機能 7 用テーブル 11110000000

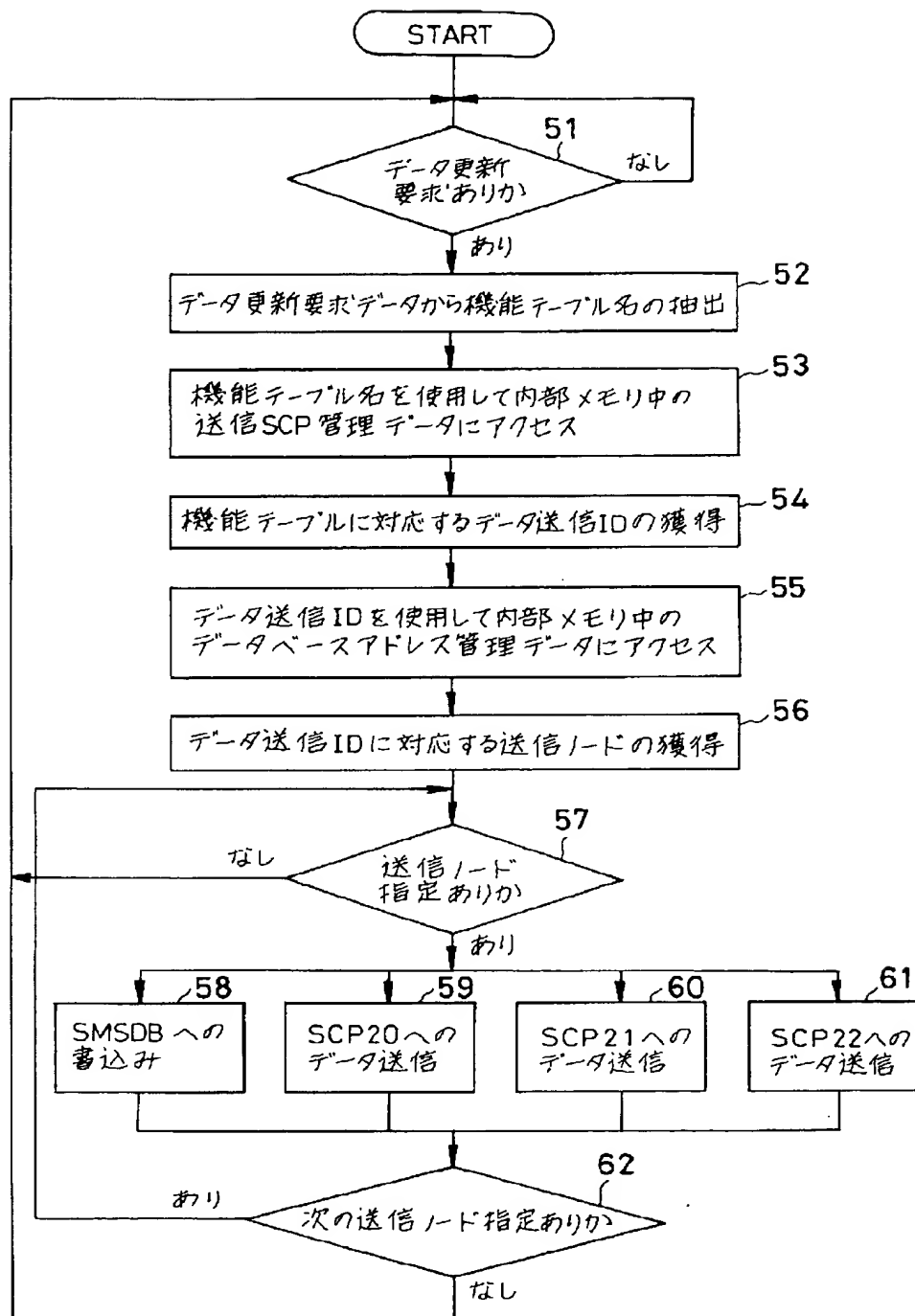
【図2】

	データ送信 ID	送信 ノード1	送信 ノード2	送信 ノード3	送信 ノード4
設定データ50	10000000000	SMS	—	—	—
設定データ51	11000000000	SMS	SCP20	—	—
設定データ52	10100000000	SMS	SCP21	—	—
設定データ53	10010000000	SMS	SCP22	—	—
設定データ54	11100000000	SMS	SCP20	SCP21	—
設定データ55	11010000000	SMS	SCP20	SCP22	—
設定データ56	10110000000	SMS	SCP21	SCP22	—
設定データ57	11110000000	SMS	SCP20	SCP21	SCP22

【図4】



【図5】



【図6】

	フリーフォン サービス (FPH)	プレミアム レートサービス (PRM)	コーディング カードサービス (CCS)	仮想私設電 話網サービス (VPN)	電話投票 サービス (VOT)
サービス基本機能(BASE)	必須	必須	必須	必須	必須
許可番号機能(PIN)	オプション	オプション	オプション	オプション	オプション
%呼分配機能(CD)	オプション	オプション	未使用	オプション	未使用
発信地域別ルーティング (ODR)	オプション	オプション	未使用	未使用	オプション
時間別ルーティング(TDR)	オプション	オプション	未使用	オプション	オプション
発信者ガイダンス(OUP)	オプション	オプション	未使用	オプション	未使用

【図7】

機能名	機能構成データ	データ設定例
サービス 基本機能	電話番号(キー情報)	0120-123456
	着信先電話番号	0471-85-1111
許可番号 機能	電話番号(キー情報)	0120-123456
	暗証番号	1234
%呼分配 機能	電話番号(キー情報)	0120-123456
	配分比率1	10(%)
	配分比率1に対する着信先電話番号	0471-85-1111
	配分比率2	10(%)
	配分比率2に対する着信先電話番号	0471-85-2222
	配分比率3	10(%)
	配分比率3に対する着信先電話番号	0471-85-3333
	配分比率10	10(%)
	配分比率10に対する着信先電話番号	0471-85-0000
発信地域別 ルーティング 機能	電話番号(キー情報)	0120-123456
	発信地域ID(キー情報)	01
	着信先電話番号	0471-85-1111
時間別 ルーティング 機能	電話番号(キー情報)	0120-123456
	時間帯1	8:00~17:00
	時間帯1に対する着信先電話番号	0471-85-1111
	時間帯2	17:00~20:00
	時間帯2に対する着信先電話番号	0471-85-2222
	時間帯3	-
	時間帯3に対する着信先電話番号	-
	時間帯4	-
	時間帯4に対する着信先電話番号	-
	デフォルト着信先電話番号	0471-85-3333